

第2回 湖西市 在宅医療・介護連携多職種研修会

「安心して話せる対話型ACPを目指して」

R6.11.7実施

参加者 77名

アンケート回収

47名

○アンケート集計

所属	
病院	20
診療所	2
歯科医院	2
薬局	2
訪問看護ステーション	5
通所系介護事業所	2
地域包括支援センター	4
居宅介護支援事業所	8
入所系介護事業所	2

職種(重複あり)	
医師	3
歯科医師	2
薬剤師	2
看護師	19
保健師	1
社会福祉士	6
理学療法士	1
介護職員	4
介護支援専門員	10
相談員	1
事務	1
施設マネージャー	1

やすい時間帯(重複あり)	
平日 午前	5
平日 午後	12
平日 夜	34
土曜日 午前	6
土曜日 午後	7
土曜日 夜	2
日曜日 午前	1
日曜日 午後	3
日曜日 夜	1
祝日 午前	1
祝日 午後	2
祝日 夜	1

研修の内容	
とてもよかった	25
よかった	22
あまりよくなかった	0
よくなかった	0

業務に生かせる内容だったか	
はい	45
いいえ	0
わからない	2

研修の内容について「とてもよかった」「よかった」の理由

- ・ACPを行うことで本人の望むこと、望まないことを知る大切さを学んだ
- ・患者さんと共に医師も自分自身のスピリチュアルペインを認識し認め受容した事で血の通った関係になったかと感じた
- ・現場での様子が見れたので分かりやすかった
- ・講義の内容が分かりやすかった
- ・事例紹介。苦しんでいる事に重点を置き支援方法を検討しがちだが、スピリチュアルペイン、心底にある苦しみを考えられるよう努力したい
- ・これからACPを行うのに参考になった。時間をしっかりかけないといけないと強く感じた
- ・ACPを行う上で一番困ることがACPの質問をする方法だったが質問内容を勉強できてよかった
- ・常にACPのことを本人と話していきたいと思った
- ・日常診療にてなかなか接する内容でないため
- ・自身の価値観を認識する機会になり、他の方の意見も聞くことが出来た為。
- ・ACPを自分の問題として捉える事が出来た
- ・ACPの取組を具体的な方法で学ぶことができた。外国のについては聞けなかったので日本がACPIについてまだ遅れている事が分かった
- ・ACPが良く分かっていなかったため
- ・その時その時の本人の気持ちを尊重し普段の会話から本人の願いや不安など聞ける話の運び方など大切だと思った
- ・元気なうちからACPを行う大切さを考えることができた
- ・ACPの必要性がよく分かった
- ・主人を3年前にすい臓癌で亡くした。本人は何もしなくていい、口癖のように言っており静かに亡くなった。最後に助かると言ってくれたのが嬉しかった
- ・ステージにおいて段階的に支援していかないといけない。疾患された時からACPがスタートしている自分がどうするか輪を乱さないようにしていく

- ・ACPのことがよくわかった。とても良い研修会だったありがとうございました
- ・ACPについての講義が初めてだったので大変勉強になった奥深さも感じた
- ・ACPについて入門講座として理解できた気がする
- ・台湾のACPなども聞けて参考になった。話を進めるスキル参考にしていきたい
- ・具体的な詳しい部分まで学ぶことができた
- ・身内が昨年亡くなりました。生きて元気でいるうちにACPを確認できていればいいと後悔が残っている
- ・とてもわかりやすかった。患者さんとの関わり方会話の仕方を学べた
- ・ACPをよく知った
- ・とても聞きやすい、DVDで具体的なことがよくわかった
- ・少し難しい内容もあった
- ・なかなか触れることができない話について、聞いたりくみ取ったりすることが大切なのか教えていただけた
- ・ACPについて再度改めて考えることができた。ACPの重要性タイミングを理解することができた
- ・ズームで参加したが聞きづらいところもあった(自分自身の問題でもあるかも?)
- ・在宅生活を維持していくため本人家族の本音をきいておくことは大切だと思う
- ・内容盛りだくさんでスピードも速くついていけなかったがとても充実したお話だった。ありがとうございました。
- ・ACPのタイミングや流れについて参考になった。ただ交際自分の技術としてうまく話ができるかは問題
- ・ACPの世界的な流れなども知れてよかった

日々の仕事に生かせる内容か? 「はい」の理由

- ・利用者に早い段階で話ができるといいと思った
- ・もしパナゲームはACPを考える糸口にとっても良いと思う。普通に話せるようなきっかけづくりをしていけるとよいと思う
- ・アセスメント～ケアプラン作成の流れの中で意見や望む暮らしを伺う。その延長戦で話を深めていけるかなと思った
- ・難病の利用者、ターミナルの利用者の対応方法について勉強になった
- ・相談業務で参考、活用できる内容が多かったため
- ・つい、上から押し付けるようになりがちであり、想いのかけらに気付き拾い上げるだけの余裕を持ちたいと思った
- ・普段から本人や家族から聞き取ることがあるため、相手の表情、声のトーンも意識し、気持ちに寄り添える言葉がけができるようにしていきたい
- ・利用者さんの小さな願いをかき集めてその人にとって最善のケアと一緒に考え提供していきたいと思った
- ・会話のつなぎ方の具体的な例を示していただいたので参考になった
- ・日々の実践の根拠の再確認ができた
- ・本人の思いへの寄り添い方小さな願いをひとつひとつクリアして生きがいと繋げる
- ・本人の希望願いを聞き出す事が難しいため参考になった
- ・在宅医療に関わっている、小さな希望を伺い叶えていく関りを持っていく事を改めて気づかせてもらい有難いです
- ・介護医療院です、長期療養のため現在ACPを始めたばかり、日々のケアが同じものであったため大切だと思った
- ・最近、臓器提供のカードに署名しようかと考えている
- ・ACP介入のタイミングを早めたい終末期ではなく慢性期で再入院した時や高齢者などPTはACPを話し合うことを望んでいるのかなと思い、やや積極的に関わっていきたい
- ・生きるためにどうしたいか。死生観ではなく生死観として考えて生かしていきたいと思います
- ・ぜひ取り入れていきたい
- ・病院での課題は沢山あるが、できるところから取り組んでいこうと思う
- ・ACPノートを自分が発信できるようにしていきたい、町内などで配布説明すれば地域の方も分かって進めてくれると思った
- ・多少なりともACPのことを頭において日常診療を行いたいと思った
- ・4つの質問を意識して支援の参考にしていきたい
- ・自分、家族を含め関わる一人一人に対しての関わり方
- ・今後の患者対応に生かしていけそうです
- ・事例などの説明もあり参考になった
- ・とても参考になった、自分の周りの友人、利用者様にも当てはまる内容であった
- ・どのような状況であっても想いのかけらを集める小さな願いを叶えていくという姿勢で行っていこうと思った
- ・入所者との対話を通してこれから先のこと一緒に考えたり少しでも本人の意向に沿った最後を迎える準備ができたら良いと思った
- ・段階的にACPを取り入れていく患者様に話し合いの場を多くとり不安等々患者様ご家族様の支援をしていく
- ・自分は上手く話すことが苦手ACP手帳があればその人の思いが分かるので全体で話すことができると思う私の出来ることは患者様の手を握ってあげることかな
- ・MSWとして患者さんから得ることができた情報を多職種で話し合う必要性を改めて感じた
- ・ACPのきっかけをとらえる日常会話の中から話を進められるようになりたい
- ・「元気に過ごす」ことを伝えていたがそれだけでなく先のことも話を聞いたり話やすい関係を作っていけたらと思う
- ・少しずつ患者さんや家族と信頼関係をもちながら一度では難しいので思いを聞いていけるようにしたいと思った
- ・いろんな患者様ご家族のACPの場面を思い浮かべながら自分の関りで正しかったこともっとこうすればよかったなど振り返ることができた、ACPに沿った支援をしていけるようにしたい

ACPを実践する上での課題

- ・2段階ありますが、やはりタイミングが難しいと思った
- ・冷静に話ができるのはいつ頃なんだろうと自分の家族に対してもきっかけは難しいと思う
- ・家族に世話をかけたくない思いのほうが多く、本人の本当の思いを聞けない事も多い
- ・やはりきっかけやタイミングが難しいなと思った
- ・本人の思いと家族の思いに相違がある場合の対応
- ・経験が少ないため実際に行っている場面を見学などできたらうれしいです
- ・研修でもあったように日本人の死に対する考え方がありちょっとタブー的なところがあるので話を聞き出すための話術という技術をつけていかないと現状聞き出す事が難しいように考えます
- ・相手が不快とならない聞き方言葉がけの難しさ
- ・元気に前向きに過ごしてほしいので「死」を考えるような言葉は出すのは難しくいいようにとらえられない気がする
- ・私たちに話してくれる本人さんと家族が他機関に話す内容や意思が違う。本音とたてまえ？どこをくみ取ったらよいかわからない
- ・認知症の方への話し方は難しい感じがする。アドバンスケアプランニングを活用したいと思います
- ・「ACPをとる」という気持ちが強かったことに気づかされた。患者さんのためであることを忘れずに取り組みたい
- ・急性期の病院で本人の意向をゆっくり聞けない中で状態が悪くなってしまうことがあるのでどうしたらいいか悩む
- ・人生会議手帳をもっと普及したらいいと思う。ACPを聞くタイミングが少し難しいと思った
- ・患者さんに理解してもらうためにはどのようにしていけばいいのか(説明の仕方がない)
- ・信頼関係を構築する必要はあると思うが外来に所属しているとPTさんに関わる時間が少ないため難しい
- ・必要性を本人や家族が理解すること
- ・ACPの話をするきっかけが難しい。ターミナル期で状態が徐々に悪化しているがまだ死について受け入れができていない利用者さんに残された時間を最期どうしたいかなかなか聞き出せない
- ・話題提供をするタイミング。誰がどういう場面で話し出すのかむずかしい
- ・関心を示してもらう。本人、家族との思いの違い。ゆっくりと向き合う時間
- ・患者、家族が今考えたくないといわれた時はどうしますか。話し合いができる時に話し合いをする。前向きにならない時はそのまま前向きになるのを待つ。患者様が前に向けるように支援していく事
- ・タイミング、情報共有
- ・話のつなぎ方(ポジティブからネガティブな話をしていく事を学びましたので行っていきたいと思う)
- ・ACPの内容をどう看護ケアENT支援に生かしていくのか「同意書」という形で終わらないようにしたいと思う
どうしても「するorしない」など選択肢となってしまう、内容を大切にしたい
- ・本人家族の話を聞きたくてもわりとケアマネージャーが拒絶するのでやりにくい。「そんなつらいこと聞くなんて」とか「私が心配しているので家族にきかないで」とか今、大事な時に聞かずに後手になったらどうすると理解してもらえるのか

在宅医療・介護連携において困っていること、今後学びたいこと

- ・Q5に関連この地域のCMのACPの認識、実績はどうなのか？市内の実績例の共有会シンポジウムはどうか
- ・ACPの研修会で実際に事例ディスカッションを入れた研修会がしたい
- ・独居の方の在宅見取りについて。(市や病院、多職種との連携について)
- ・定期的にACPについて、講演をして欲しい。多くの方が参加して向上に向けていきたい
- ・本人の意思がなかなか聞き出せなく家族の意思も得られないことがよくあり困ることがある
- ・それぞれの職種ごとに役割が違うせいかなかなか意思や思いが伝わらないことがあったりそれぞれの連携や協力が得られず現実的に難しい、変わらないと思うことがある。上手な連携の仕方。同じ方向に向けて動ける方法